



医療
ホット
ライン

内科

胸部レントゲンでは見えない 「初期肺がん」には、CTが有効



西村内科脳神経外科病院

濱武 諭 院長

肺がんの分類(大きく2種類)

●小細胞がん

肺門部(肺の中心部の太い気管支)にできやすく、進行が早いがん。喫煙と関係して男性に多い

●非小細胞がん

線がん…肺の末梢(肺野)に発生しやすく、最も頻度が高い肺がん。非喫煙者の女性もかかりやすい

扁平上皮がん…喫煙と関係して2番目に多いがん

喫煙者の肺がんリスクは、非喫煙者に比べて男性で4.4倍、女性で2.8倍。また遺伝や加齢、間質性肺炎等もリスクとなります

日本人のがんによる死因で最も多いといわれる「肺がん」。しかし、肺がんは初期段階では自覚症状がないうえに、胸部レントゲン検査だけでは診断が難しいことをご存じですか？
濱武院長に詳しくお話を伺いました。

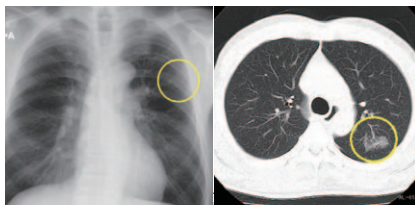
—なぜ肺がんは見つかりにくいのでしょうか？
濱武 胸部レントゲン検査では、血管や心臓・肋骨・気管支・肝臓など重なった場所にある腫瘍や、1センチ以下の小さな腫瘍、初期の「すりガラス」のような影を見つけるのは非常に難しいか

—健康診断を受けているから安心、とは言い切れませんね。
濱武 はい。今

—発見後の治療は？
濱武 早期肺がんなら、手術や放射線治療で完治可能で、抗がん剤さえ飲む必要がないこともあります。しかし、見つかった時にはすでに進行がんの場合が多く、手術・放射線治療・抗がん剤を組み合わせる治療が必要です。

—進行がんとなれば、早期発見が重要で、残り80%は進行がんとなっていて、また初期段階では自覚症状に乏しく、進行して血痰や咳、呼吸困難、胸痛等の症状が出た時はすでに他の臓器へ転移していることもあります。

—発見後の治療は？
濱武 早期肺がんなら、手術や放射線治療で完治可能で、抗がん剤さえ飲む必要がないこともあります。しかし、見つかった時にはすでに進行がんの場合が多く、手術・放射線治療・抗がん剤を組み合わせる治療が必要です。



胸部レントゲンではここまで見つかりにくい

左はレントゲン、右はCTで撮影した早期肺がん。CTはコンピュータ処理後、様々な方向から見て、良性か悪性を診断します

胸部CT検査を受けるには、人間ドック等でのオプションで追加できる場合もあるので、各施設に確認を。また症状が続く、レントゲンで異常が見つかった時には、保険適用で受けられる場合もあります。当院では、肺がんドックも実施しておりますので、ご相談ください。